

平成21事業年度及び第1期中期目標期間における特色ある取組と 従前の年度評価の結果に関する対応状況(レジュメ)



OITA UNIVERSITY

平成 22 年 8 月 31 日

国立大学法人 大分大学

I. 第1期中期目標期間を振り返って

◆ 統合と国立大学法人化のメリットを生かした「地域社会と連携した特色ある大学づくり」を推進

○学長が提起した第1期中期目標期間における各事業年度計画実施に関する基本方針

★実績報告書（抜粋版）P2

- (1) 法人評価による評価結果に対して、確実に対応し改善を実施すること。
- (2) 学長のリーダーシップの下で、学外有識者の意見を尊重しつつ、迅速な意思決定システムの構築と構成員全員による情報の共有を図ること。
- (3) 二大学統合のメリットを生かし、両キャンパス間の交流促進のもと教育研究の発展を図ること。
- (4) 入学前から卒業後まで、学生の目線に立った教育・学生支援システムを構築すること。
- (5) 大分大学の個性を生かした研究の柱を構築すること。
- (6) 社会連携を通して地域とともに歩む大学づくりを目指すこと。
- (7) 先進医療への取組を進めるとともに、附属病院を地域の医療センターとして一層の発展を目指し取り組むこと。
- (8) 人件費の適切な管理と予算の効率的な活用を進めるとともに、競争的資金の獲得増を目指すこと。

※国立大学法人評価委員会による各年度評価結果の推移

年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
業務運営の改善及び効率化	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ
財務内容の改善	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
自己点検・評価及び情報提供	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
その他業務運営に関する重要事項	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ

- Ⅴ：「中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」
 Ⅳ：「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」
 Ⅲ：「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」
 Ⅱ：「中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている」
 Ⅰ：「中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある」

Ⅱ. 第1期中期目標期間における特色ある取組—平成16～20年度を中心に—

◆ 経営協議会の活性化（平成17年度～）

★実績報告書（抜粋版）P2・9

- 原則月例開催
- 資料等の事前説明を通じた意見等の収集
- 「経営協議会の活性化に向けた基本的考え方」の策定
- 「（前回会議以降の）大分大学の活動状況」の報告、「本学の特色ある取組」の発表を実施
- 学外委員からの意見や提案に対する取組の説明
- 欠席委員への審議事項の事前説明及び意見聴取を実施

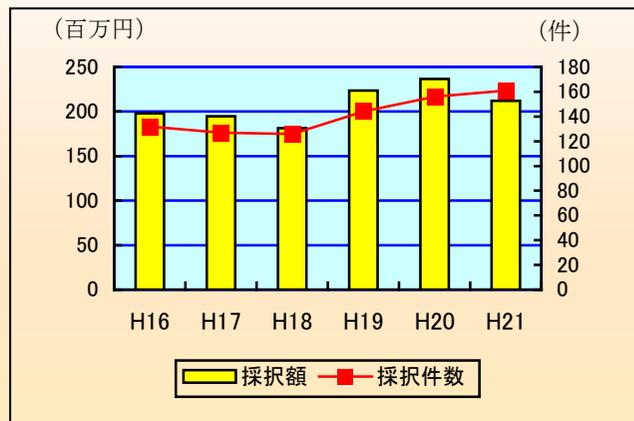
年度	開催数
平成16年度	6回（1）
平成17年度	8回（1）
平成18年度	8回（0）
平成19年度	10回（2）
平成20年度	9回（1）
平成21年度	12回（5）

※（ ）は稟議による開催を内数で表す

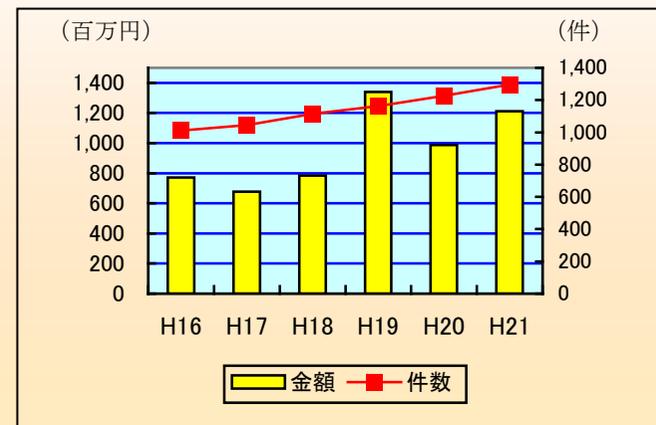
◆ 学長裁量経費の有効活用（平成17年度～）

★実績報告書（抜粋版）P3・10・14・15

- 配分ポリシーを全面的に見直し、外部の競争的資金の獲得に積極的に挑戦することを目的に、平成18年度より4つのプログラムへの重点配分を決定
- 学長裁量経費配分額を増額
（平成18年度：1億円，平成19年度：1億5,000万円，平成20年度：1億8,000万円，平成21年度：1億9,500万円）
- 学長の下に「審査委員会」を組織し、書類審査・ヒアリング審査を通じたピアレビューを導入
- 事業実施の翌年度に「成果報告会」を開催



科学研究費補助金の採択状況



外部資金の受入状況※（H19に高額寄附（4億円）あり）

◆ 効率的で責任ある意思決定体制の構築（平成 18 年度～）

★実績報告書（抜粋版）P2・9

○学長、各理事を補佐する組織として、学長室及び理事室を設置するとともに、全学委員会を原則として各理事の下に部門会議制に収斂

「委員会数」：約 4.1% 減（61 ⇒ 36）、「委員数」：約 4.1% 減（469 名 ⇒ 277 名）、「時間数」：約 2,700 時間減

○学長補佐制度の活用

◆ 事務改革推進のために「事務改革会議」を設置（平成 19 年度～）

★実績報告書（抜粋版）P3・9・16

○事務連絡会議、事務改善委員会、事務情報化推進室を廃止し、それぞれの機能を「事務改革会議」に一元化

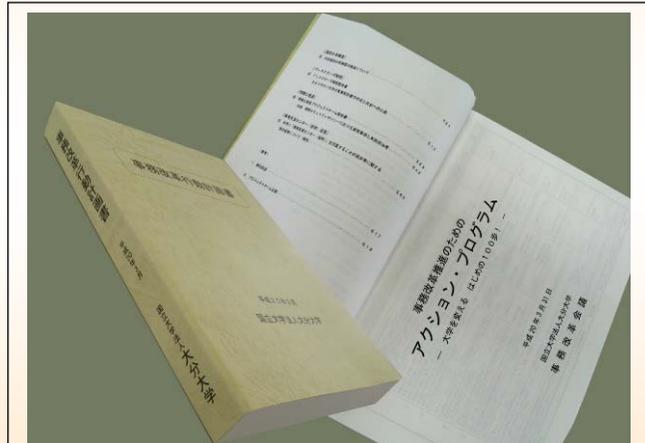
○「事務改革会議」の下に 9 つのプロジェクトチームを設置

○「事務改革推進のためのアクション・プログラム—大学を変える はじめの 100 歩！—」を策定・実施

「事務改革推進のためのアクション・プログラム」の主な実施事項

- ①内部規則の再構築
- ②全学的な情報化を推進する「情報化推進室」の設置
- ③専門的な外部人材の積極的な登用
- ④業務手順説明書の整備
- ⑤「職制のフラット化」と「組織の柔軟化」を柱とした事務組織の見直しの検討

etc



事務行動改革計画書

※顕著な成果が上がった取組：「内部規則の再構築」

9 階層あった内部規則の体系を 4 階層に圧縮するとともに、151 の内部規則を廃止し、217 の内部規則の内容見直しを実施

◆ きめ細やかな学生支援体制の整備（平成 18 年度～）

★実績報告書（抜粋版）P4・6・21・34

○外部のソーシャルワーカーを配置した「キャンパスライフなんでも相談室」を且野原・挾間の両キャンパスに設置

○就学に問題や不安のある学生や保護者からの相談に対して、精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカーが総合的に対応し、学生にフリースペースや学習支援の場を提供する「ぴあ ROOM」を且野原（平成 20 年 10 月）、挾間（平成 22 年 2 月）の両キャンパスに設置

○平成 20 年度「大学教育改革支援プロジェクト（GP）」に採択

★「ぴあ ROOM」（且野原キャンパス）の利用状況（H21. 04～H22. 03）



ぴあROOM

	相談件数
本人	1,476
家族	140
教職員	173
家庭訪問	27
通信（電話、メール）	278
合計	2,094

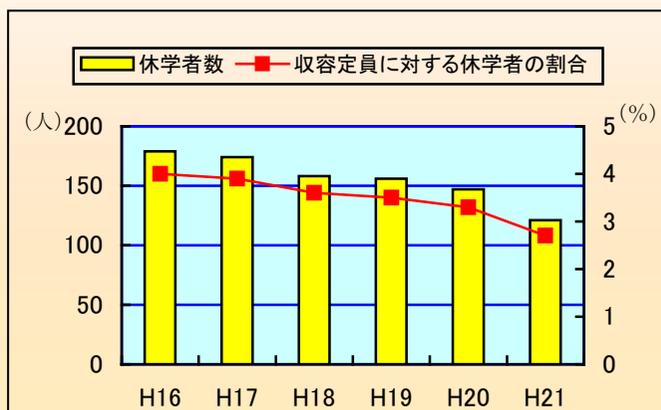
相談等延べ件数

	利用者数
教育福祉科学部	246
経済学部	180
工学部	1,038
合計	1,464

学習サポートデスク延べ利用者数

	利用者数
教育福祉科学部	767
経済学部	404
工学部	659
合計	1,830

フリースペース延べ利用者数



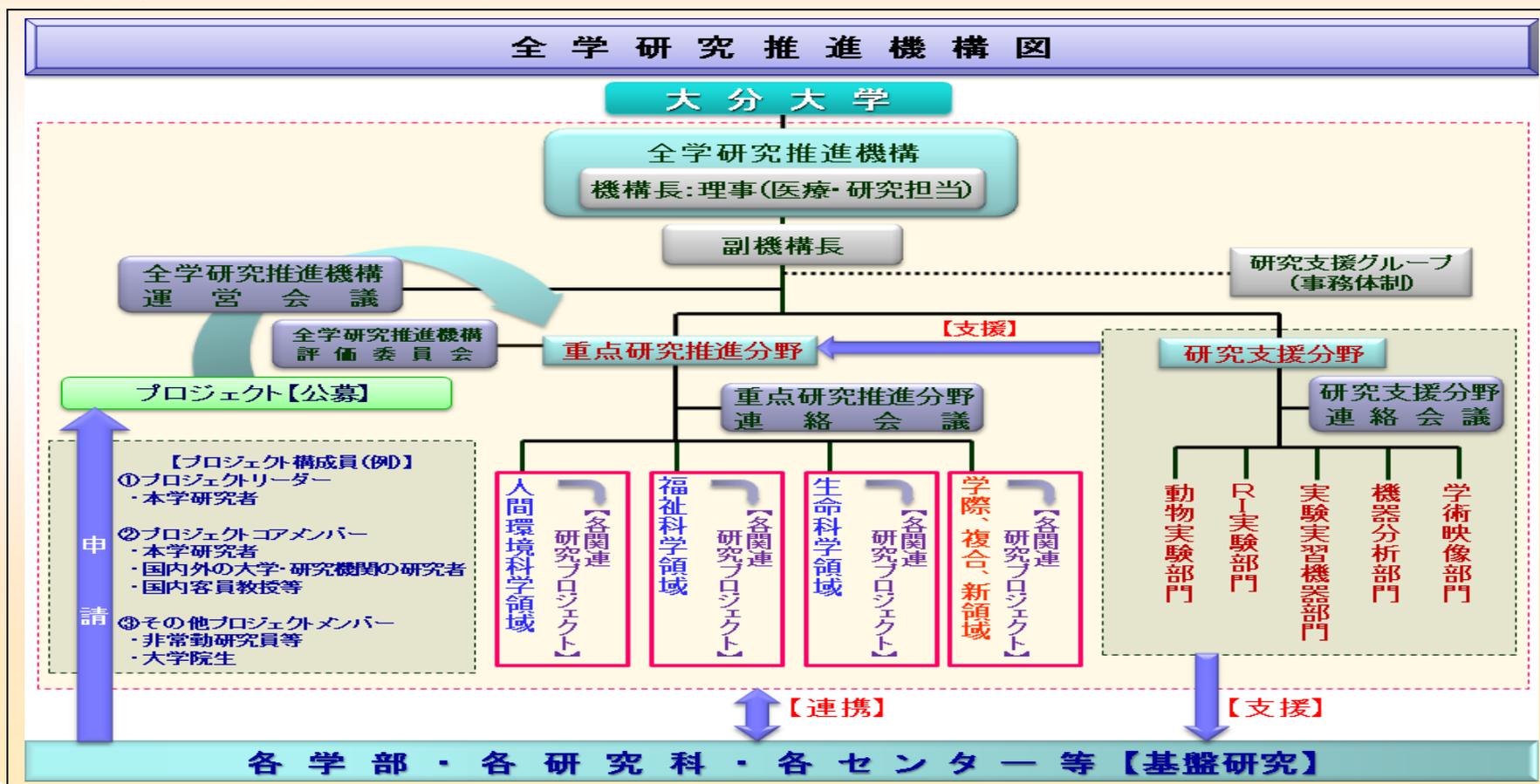
休学者数の推移



退学者数の推移

Ⅲ. 平成 21 年度における特色ある取組

- ◆ 「全学研究推進機構」の設置 ★実績報告書（抜粋版）P3・35
 - 学部・学科の枠にとらわれない共同研究実施体制として、総合科学研究支援センターと先端医工学研究センターを統合し、「全学研究推進機構」を設置
 - 統合時に定めた3つの領域に、学際・複合・新領域を加えた4つの領域の研究を重点的に推進するために「重点研究推進分野」を設置
 - 研究支援体制の整備として「研究支援分野」を設置し、**教員4名、技術職員13名**を配置
 - 学内公募により重点的な研究プロジェクト**24件**を採択し、学長裁量経費により研究経費を配分
 - 大型研究プロジェクトとしての発展の可能性について評価を行う「全学研究推進機構評価委員会」を設置



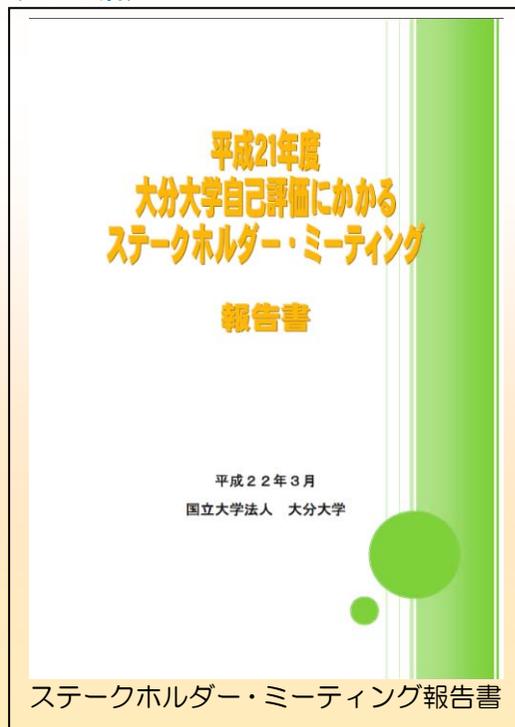
◆ 「大分大学ステークホルダー・ミーティング」の設置、開催

★実績報告書（抜粋版）P5・13・20・26

- 自己評価に対する積極的な意見聴取システムとして、「大分大学ステークホルダー・ミーティング」を設置
- 本学に関係の深いステークホルダーから構成員 1 2 名を選出
- ステークホルダー・ミーティング構成員と本学理事等が一同に会する「意見交換会」を開催
- ステークホルダー・ミーティング報告書を作成するとともに、公開ホームページにおいて公表
- 寄せられた意見等については、平成 22 年度計画アクションプランの策定等において活用

★ステークホルダー・ミーティング構成員

- 本学大学院生（4名）
教育学研究科、経済学研究科、医学系研究科
工学研究科
- 保護者（1名）
教育福祉科学部後援会
- 高校教諭（1名）
大分県立大分雄城台高等学校教諭
- 自治体関係者（2名）
大分市、(財)大分県産業創造機構
- 企業関係者（4名）
西日本電線株式会社、株式会社デンケン、
株式会社オーイーシー、東京海上日動火災
保険株式会社



意見交換会の様子

◆自己収入の増加に関する取組

○入学志願者の確保 ★実績報告書（抜粋版）P4・21・24

- ・「入学企画支援センター」を設置し、専任の「入学支援プランナー」を採用（平成20年度）
- ・153カ所（前年度比109カ所増）の各種合同進学説明会に参加、うち8カ所（前年度比7カ所増）は、留学生のための進学説明会
- ・45校（前年度比29校増）での高校別進学説明会の開催
- ・95校（前年度比82校増）への高校訪問の実施
- ・55名（前年度比3名増）の「キャンパス大使」を出身高校へ派遣

前期のみの募集に変更した医学部医学科の志願者減にもかかわらず、全学の一般入試志願者総数は前年度比89名増
（全入試制度を合計した志願者総数は前年度比315名増）

○休・退学及び除籍者を減らすための改善方策 ★実績報告書（抜粋版）P4・6

- ・「キャンパスライフなんでも相談室」と「びあROOM」によるきめ細かな支援体制を充実
- ・新たに挟間キャンパスに医学部生を対象とする「びあROOM」を設置

休学者は、前年度比約18%減（26名減）、退学者・除籍者は、前年度比約5%減（6名減）

○余裕資金の管理運用 ★実績報告書（抜粋版）P5

- ・年度及び四半期毎の資金繰計画を作成
- ・金利が有利で安全な期日指定の定期預金などによる積極的な運用の実施

市場金利低下の中にも関わらず、約2,340万円の利息収入を確保
利息収入の一部を学長裁量経費に充当し、学生の課外活動を支援

IV. 従前の年度評価の結果に関する対応状況

平成17年度評価結果における指摘内容

年度計画【185】「教務委員会が学生支援部と連携して、3年生以上の学生が、Webから履修登録を行う方法等について検討を行う。成績結果の確認や履修単位の照会に関してもWebで行えるよう検討を開始する。」については、ワーキンググループ設置にとどまっており、平成18年度から検討を開始するとされていることから、年度計画を十分に実施していないものと認められる。

対応状況

- 平成20年度までにシステムを構築し、改善済
- 平成21年度においては、7件のプログラム改修を図り更なる利便性の向上を図った

平成18年度評価結果における指摘内容

大学院博士課程において、学生の収容定員の充足率が85%を満たさなかったことから、引き続き、速やかに定員の充足や入学定員の適正化に努めることが求められる。

対応状況

- 大学院博士課程＝収容定員165名に対して179名が在籍、充足率は108%（平成21年5月1日現在）
 - 医学系研究科においては、修士課程に導入していた長期履修制度を博士課程においても導入
- ※参考：平成22年5月1日現在の充足率＝112%

★実績報告書（資料編）12-1-1・12-1-2

大分大学学歌

作詞 蛙屋 萬斎
作曲 道谷 増夫

一. 速吸瀬戸の 風寄せる
恵み豊かな この海は
無限の理想 膨らます
我らここに 学びては
深き叡智を 養いて
未知へと挑む 者ならん
ああ 大分大学 我らあり

二. 遠く山並み 仰ぎ見る
総り豊かな この平野
自由の想い 強くする
我らここに 学びては
創造の気を 育みて
時代を導く 者ならん
ああ 大分大学 我らあり

三. 広く世界に 開かれた
歴史豊かな この地には
進取の気概 溢れたり
我らここに 学びては
その志 受け継ぎて
世界に羽ばたく 者ならん
ああ 大分大学 我らあり



渡辺恭英 画